

幼児教育のセーフティネットの視点から、鹿本幼稚園閉園の延期を求める陳情
陳情の理由

H23 年 9 月、区立鹿本幼稚園の閉園が在園児保護者に知らされました。
しかし、鹿本幼稚園周辺には私立幼稚園含め親子が共に徒歩で通える園がありません。記憶にも新しい東日本大震災では、地震発生後に園に預けた子供を引き取りに行けず、大変不安な時間を過ごしたという事例も多くありました。
災害だけでなく、万が一の事態が起こったときに、すぐに子供を迎えに行ける環境は重要です。

また、近年続く不景気で家計がひっ迫している家庭も少なくありません。
江戸川区では私立園保育料の補助が出ますが、区立園の年間支出に比べると、入園料含め 9 万円以上の差が出ます。(資料 1 参照) 家庭の教育方針で幼稚園に通わないという子以外はほとんどの子供が幼稚園に通う現在、通わせたいのに通えない子供を出してしまって良いのでしょうか？これは、教育委員会や行政の責任と考えます。

区立幼稚園が、私立園で受け入れの難しい子の受け皿になっている事実もあります。(資料 2 参照) 障害児と健常児がともに育っていく環境の統合保育の推進は、障害者の権利に関する条約(国際条約)の第 24 条および障害者基本法の第 16 条において「地方公共団体の責務」として明確に示されており、江戸川区としても当然進めていかなければならないものです。その流れに反するように区立園をなくしてしまうことは、区の子供たちにとってマイナスです。障害児に限らず、今年 4 月から、鹿本幼稚園にはすでに他園から転入してきたお子さんが 3 名います。H26 年以降、鹿本のような園がなくなった場合、そのような子供たちは無事に幼稚園に通うことができるのでしょうか？通うことができる環境を造ることができるのは、教育委員会の他にありません。

以上のように、閉園決定に向けてはしっかり検討及び準備しなくてはならないことが非常に多く、来年度幼稚園入園を控える区民としては非常に心配です。現時点では少なくとも閉園時期を延期し、上記の点についての不安が取り除かれた後で、閉園の是非の結論を出すべきだと考えます。

つきましては、親子が安心して幼児教育を受けることができるよう、鹿本幼稚園の閉園を延期いただきたく陳情いたします。

平成 24 年、8 月 10 日

陳情者

氏名

住所

陳情第56号・第61号関係資料

区立幼稚園と私立幼稚園の費用比較

(円)

		区立幼稚園	私立幼稚園		
			支払額(3歳児)	区補助金	保護者負担額
入園時費用	入園(手数)料	1,000	110,000~130,000	80,000	30,000~50,000
	設備費	—	0~30,000	—	0~30,000
	選考料	—	0~5,000	—	0~5,000
	制服代等入園準備費用	4,440~ 13,760	0~40,000	—	0~40,000
	入園時費用計	5,440~ 14,760	110,000~205,000	80,000	30,000~125,000
月額	保育料	3,000	29,000~37,000	26,000	3,000~11,000
	教材費・PTA会費等	2,000~ 3,000	400~4,840	—	400~4,840
	月額計	5,000~ 6,000	29,400~41,840	26,000	3,400~15,840
その他	通園バス利用料	—	2,500~5,000	—	2,500~5,000
	給食費 *給食がある場合	—	2,500~5,000		2,500~5,000

*教材費等は年額で納入する場合がある(区立と私立の比較のため月額換算した)

*就園奨励により、私立幼稚園保育料も区立と同じ額の入園料1,000円 保育料年間4,000円まで減額となる場合がある

在籍児童における発達障害児の割合(区立保育園、私立保育園、区立幼稚園、私立幼稚園)

	発達障害児	在籍	割合	
区立保育園	44	4,758	0.92%	H23. 4現在
私立保育園	90	4,789	1.88%	H23. 10現在
区立幼稚園	18	427	4.22%	H23. 5現在
私立幼稚園	不明	10,858	—	H23. 5現在

0～5歳児の人口における児童デイサービス受給者証の発行割合(H23.10)

	受給者証発行人数	人口(住基)	割合
0歳児	0	5,928	—
1歳児	7	6,246	0.11%
2歳児	28	6,226	0.45%
3歳児	66	6,354	1.04%
4歳児	80	6,230	1.28%
5歳児	79	6,153	1.28%